

がん研有明友の会 会報

# 有明の風

第58号

2023年 8月10日発行



六里ヶ原方面からの浅間山

## Web会議のよしあし

がん研有明友の会 監事  
岩井 国立

新型コロナウイルス感染症も5類に位置付けられましたが、3年以上にわたる不自由な生活を経る過程で小生のような法律事務所を取り巻く環境は劇的に変わりました。

裁判所における手続も証人尋問を除いてその余の準備手続のほとんどが Teams による Web 会議で済むことになり、また各社からのご相談も従来は事務所に来ていただき対面により行っていたものが、そのほとんどが Teams や Zoom による Web 会議になってしまいました。

そのため事務所内で終日PC画面を前にして業務に従事するようになりました。他方、各社における従業員の就業状況にも変化がみられ、Web 会議の登場により従業員の自宅にPCの設備さえあれば、わざわざ毎朝出社しなくても業務によっては在宅勤務により対応できるようになったようです。また、検討すべき事案に本社、各事業所、在宅勤務者が関係している場合には、事務所での対面による打ち合わせであればそれぞれ各所から事務所に参集していただいていたのですが、Web 会議であればそれぞれの場所にいたままで打ち合わせができることから、時間的にも費用的にもより効率的に対応できるようになったのです。

もとより打ち合わせのために必要な情報は事前に送っておいていただく必要がありますが、この点も担当者の方から整理された資料をメール添付にて送っておいていただければ済むことであり、適切な資料がないため打ち合わせにならなかったなどということは一度もありませんでした。

確かに便利になったものです。しかしながら、関係者のなかには生きた人間が膝を突き合わせて議論するから問題点が見えてくるのであり、PCに映った顔と電気回線を通じた音声を聞いただけでは対面でのような成果は出てこないとおっしゃる方もあります。

要は、面談の目的に合わせて選択すればよい訳で、急を要する事案で内容が具体的に分かればよい事案については Web 会議により、お互いに相手の様子を見ながら議論を進めた方がよい事案については面談による会議によればよいのではないかと思います。

多くの場合は前者によるのではないかと思います。たまには後者による面談も捨てたものではないと思ってきました。皆さんはどちらを好まれますか。

# がん研有明友の会 第18回定時総会報告

待ちに待った定時総会を4年ぶりに開催いたしました。国内外ではまだまだ多くの面で混乱状態が続いており、その中であって、新型コロナウイルス感染者数は大幅に減少傾向にありますが、気を緩めることはできません。

本会が支援するがん研有明病院でも感染拡大防止に向け、入院患者さんへの面会はまだ制限されており、「がん研有明友の会(以下、本会と云う)」の活動も病院業務に合わせざるを得ないのが現状です。

去る4月に本会理事に対し5月の理事会及び6月の総会開催の是非に関し諮問文を提出して意見を募りました。その結果、5/26(金曜日)理事会を開催、6/20(火曜日)総会を限られた人数でしたが午後1時から開催、すべての議案は原案通り承認されました。議事審議の内容、報告承認事項の主なもの次は次の通りです。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

## ①令和4年度(2022年)事業報告

会報発行はコロナ禍の感染状況が厳しかった中で年4回発行、9月の講演会・懇親会は中止、(公財)がん研究会へ例年通り寄付100万円(当該年度は、翌年度令和5年4月に贈呈、ストレッチャー購入費に充当)、また、ボランティア支援室へ寄付5万円、寄付累計額は2,200万円余となっています。また、がん検診割引支援継続、持ち回り理事会年2回、第17回定時総会は持ち回り理事会専決処分による総会承認、4つの委員会活動随時開催。

## ②令和4年(2022年)度収支決算報告

会費収入は予算に対し約2%減の5,785,313円、支出は会報発行4回、パンフレット増刷、人件費・通信費減、予備費ゼロ等により約27%減の4,341,880円となり、約144万円繰越増(がん研支援金100万円が翌年度令和5年4月7日寄付のため)と

なりました。

## ③令和5年度(2023年)事業計画

コロナ禍の推移を注視しながら活動範囲を広げていきます。会報発行年4回、講演会・懇親会開催は未定、がん研支援金寄付は例年通り100万円、ボランティア活動支援、がん検診割引支援継続、対面理事会年4回、第18回定時総会は対面実施、4つの委員会活動随時開催いたします。

## ④令和5年度(2023年)収支予算

収入はコロナ禍の影響を考慮しつつ前年度決算に対しほぼ同額の5,850,000円、支出は前年度決算に対し、がん研支援金100万円が翌年度令和5年4月7日寄付及び人件費・諸物価高騰等を受け158%増の6,850,000円。また例年通り、(公財)がん研究会への100万円の寄付を中心に据えてボランティア支援予算を維持、がん検診割引支援継続、新パンフレットの有効活用により会員の維持・増員を図ります。

## ⑤令和5年度(2023年)の役員体制

役員は、本会の活動があらゆる面で制約されている現状に鑑み、理事・監事は留任といたしました。



渡邊会長より佐野病院長へ寄付目録を贈呈

## 有明療友会45周年研修会のあゆみ

がん研有明病院 トータルケアセンター 患者・家族支援部 WOC支援室 師長 松浦 信子



により発足されました。ストーマのお手入れ方法や生活の工夫などを、共に経験を語り合い、助け合い、支えて、支えられる場がこの患者会の役割となりました。

現在は、会員43名となり、年3～4回の研修会、年1回は温泉旅行での研修会を患者さん主体で活動しています。相談役には、消化器外科医師、泌尿器科医師、WOCチームも参加しています。近年、ソーシャルネットサービス(SNS)の普及により、情報やコミュニケーションもインターネットを活用する方も増え多様化してきていますが、療友会のように対面での患者会のあり方も、体験を語り合う大切な場です。

今後も療友会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

2023年6月10日(土)に有明療友会45周年研修会が開催されました。療友会は、ストーマ(人工肛門や人工膀胱)を造設された方の会です。この会が発足した1978年当時は、今のような市販のストーマ装具がありませんでした。ガーゼでストーマを覆うだけのため、常に排泄物による皮膚のかぶれや臭いに悩まされてきました。医療者からのお手入れの説明もなかったため、ストーマ造設された方々を取り巻く環境は大変辛く、苦悩された時代でした。そんな中で、療友会はストーマ造設された患者さん3人と泌尿器科医師



## 癌研病院勤務から50年の区切りを終えて シリーズ ②

がん研有明病院 名誉院長 中川 健

### ● 経験した三つの災害の覚え書き

2番目の広域停電事件ですが、有明移転の翌年2006年8月14日の朝の事でした。7時半過ぎに車で出勤すると、病院近くまで来て、入口直近の信号が消えているではありませんか。事態の把握に戸惑いましたが、ともかくも病院の外も停電と判断し徐行で信号を渡って病院に入りました。この時も病院長は夏期休暇中で、出勤したばかりの副院長の私が災害対策本部を立ち上げました。停電の原因はまだ判っていませんでしたので、まず当日の予定手術は1時間の開始延期とし、次いで原因に関する情報収集と、院内の状況報告要請をしました。電子カルテシステム全体は非常電源には接続されていないので、停電復旧までは紙での運用として診療は継続としました。勿論院内は非常電源のみの照明でしたが、大塚での停電時よりもかなり明るくなった印象でした。



停電の原因はまもなく報道で分かりました。江戸川河口でクレーン船がクレーンを下ろさずに河口に入ったところで、クレーンの先が河口を横切る高压電線を切断してしまったという事です。正確には、クレーンが河口付近で高压電線の基幹線に接触し、その時放電によって一部の電線が完全溶断した事故と判明しました。後からの停電規模の情報では東京都区部で97万戸、神奈川県と千葉県で計280万戸に及ぶ広域停電事故となったということです。幸い広域停電を予測してのバックアップ回路を使った送電が1時間もせず開通しました。お陰で手術は予定の60分遅れで順番に開始でき、その他の部門の不都合も順次解消し、昼には病院としての不都合は全て解消しました。

3番目はあの東日本大震災で、この時は私が病院長でした。大地震の発生は2011年3月11日午後2時46分でしたが、私は所用での外出から帰院して間もなくで院長室にいました。激しい横揺れが2分以上の長さで続いたでしょうか。地震はまず縦揺れが来て、続いて横揺れが来るものと思っていましたが、この時には縦揺れははっきりせず、横揺ればかりで長い時間揺れたとの記憶です。経験のない大地震だと感じて北の窓外を見ると、すぐ近くを走っている首都高速湾岸線の豊洲出入口への高架の道路脇に溜まった土ほこりが煙をあげて落下してゆきました。

大きな揺れながらも免震建築のお陰か、部屋の備品で倒れたり落下したりするものはなく、停電も起きず病院の建物本体に大事はなさそうな印象を持ちながら、1階の防災センターへと急ぎ、すぐに災害対策本部を立ち上げ、各部門の被害状況を報告するよう指示しました。地震の揺れの程度は、東京都区部で震度5強と後刻発表がありました。

次号(59号)に続く

## 大腸外科のご紹介と最新の話

がん研有明病院 大腸外科 副部長 秋吉 高志

大腸外科は大腸や小腸にできた腫瘍、特に大腸がんの手術を専門とする科です。大腸がんは大きく分けて結腸がんと、肛門に近い直腸がんに分類されます。特に早期がん(ステージI)では、手術により95%前後の高い治癒率が期待でき、大腸がん治療において手術は最も有効な治療法です。がん研大腸外科では2005年から全国でいち早く高精度のカメラを用いて小さな傷で手術を行う、腹腔鏡下手術を導入しました。2018年からはロボット支援下手術も導入し、スタッフには腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術で日本でもトップクラスの経験ある外科医が揃っています。



結腸がんでは手術後の後遺症は比較的少ないのですが、直腸がんでは術後排便障害(便の漏れや回数の増加、残便感など)や人工肛門が必要な場合があるなど、術後患者さんの生活への影響は少なくありません。また、直腸がんは手術の難易度も高く、局所再発(切除したがんの近くの骨盤内に再発すること)が結腸がんより多いことが特徴です。そのため、進行した直腸がんでは再発を減らすために、術前に放射線療法や抗がん剤治療を行うことが世界的には標準治療となっています。しかし、日本では術前の放射線療法を行う施設が少ないのが現状です。がん研は直腸がんの術前放射線療法の経験数では日本でダントツの1位であり、大腸外科と放射線治療科、消化器化学療法科など複数の科でチームを組んで治療に当たっており、このチームワークの良さとチームの質の高さががん研の大きな強みです。

進行直腸がんでは、このように術前に放射線療法と抗がん剤治療を組み合わせることで、30-40%程度の患者さんではがんがほとんど見えなくなってしまいます。そのような高い治療効果が得られた患者さんでは、すぐに手術をせずに慎重に経過観察をする方法(Watch and Waitとか、待機療法とか言われています)があり、この待機療法の経験数もがん研は日本でダントツの経験数を誇ります。ただし、待機療法を行った患者さんの20-30%は直腸のがんが再増大してきますので、早い段階で発見するために2-3ヶ月ごとの検査が必要になります。しかし待機療法を行った70%程度の患者さんでは手術を行うことなくがんが治癒し、排便障害など生活の質の低下を最小限に抑えることができます。

しかし待機療法はよいことばかりではありません。まず約半年にも及ぶ長期の放射線+抗がん剤治療を受けて頂く必要がありますし、長期間治療を頑張っても、最終的にがんが残ってしまえば手術を行う必要があります。また、待機療法可能な患者さんの見極めは簡単ではありませんし、直腸がんの部位によっては術前放射線療法を行わず、すぐに手術を行った方がよい場合も多くあります。がん研大腸外科は手術のスペシャリスト集団ですが、一方で手術をせずに治るのならそれが一番とも考えており、個々の患者さんにとって最善と思われる治療を提案することをモットーとしています。



## がん研有明病院

## 部 署 紹 介

第52回 先進がん治療  
開発センター

先進がん治療開発センター長 血液腫瘍科部長 院長補佐 丸山 大

がん研究会は国内有数のがん診療・がん研究における high-volume center であり、「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」というミッションを掲げています。私たちは世界に通ずるがん治療開発に貢献し、ひとりでも多くのがん患者により良い治療を提供できる医療機関となる使命があります。その使命を果たすためには、がん研究会における早期探索開発を含めた治験・臨床研究の推進および ARO (Academic Research Organization) 機能を兼ね備えた研究支援部門の拡充が必須です。こうした背景から、2022年4月にそれまでの臨床研究・開発センターと先端医療開発センターとを統合・再編成して、新たに先進がん治療開発センター (Center for Development of Advanced Cancer Therapy: CDACT) として組織されました。組織運営で最も大切なことのひとつは、組織の将来の方向性とあるべき姿を明確にし、実効性のある計画を策定することです。そのために、2022年6月には外部有識者を委員長とする「機能推進委員会」を立ち上げ、現状の課題分析とその対策を数回にわたって議論し、最終的に表に示す5つの事項が提言されました。



CDACT は臨床試験支援部、審査管理部、企画戦略部、TR 支援部、医療機器開発部から構成されています (図)。がん研究会に求められる質の高い臨床研究や治験を円滑かつ効率的に実施し、また研究本部や外部機関・企業などと連携して TR/リバース-TR (R-TR) を推進することにより、提言を実現するための包括的な支援機能を集約しています。

CDACT は船出したばかりです。人員配置、ノウハウ、資金獲得・運用、早期開発・連携の体制整備など幾つもの解決すべき課題がありますが、我々は一歩ずつ着実に前進して参ります。がん研究会の研究者のみなさまに CDACT を認知・活用いただくことで、一丸となってがん研究会および医療の発展に努めて行きたいと考えています。がん研究会と CDACT にどうかご期待ください。

提 言	内 容
1	企業治験の推進に関する提言
2	医師主導治験を含む臨床研究全般の推進に関する提言
3	がん研究会内外との連携に関する提言
4	保有するまたは保有すべきデータ資産に関する提言
5	先進がん治療開発センターのガバナンス構築と透明性の確立に関する提言

表 機能推進委員会からの5つの提言

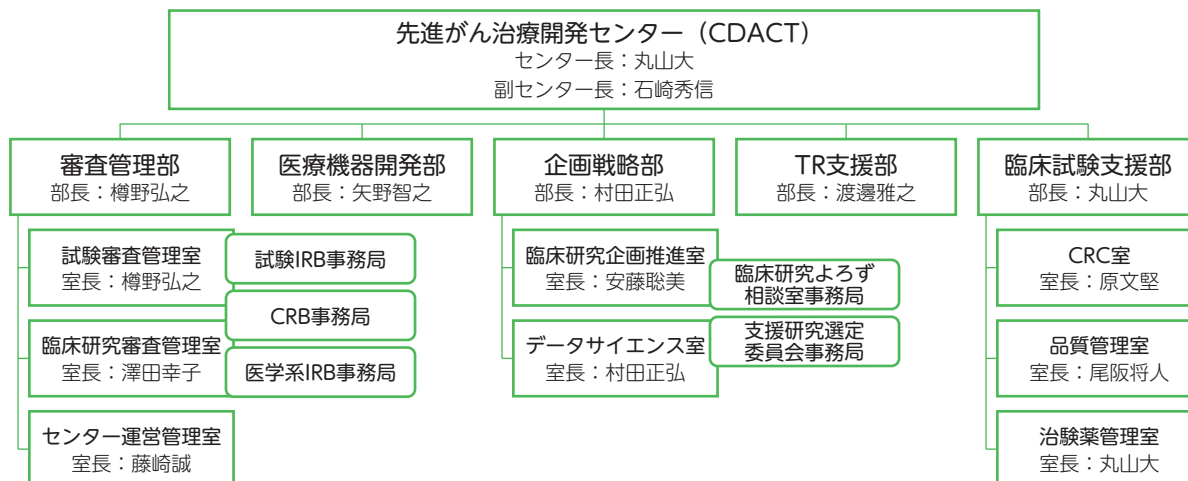


図 先進がん治療開発センター組織図



# 寄稿

## 原千晶様 プロフィール

1974年北海道生まれ。1994年20歳の時に第21代クラリオンガールに選出され芸能界デビュー。以降、TVや雑誌を中心にタレントとして活動。2005年30歳の時に子宮頸がん、35歳の時に子宮体がんを診断を受ける。2011年7月、自身のがん経験をもとに婦人科がん患者会「よつばの会」を設立。現在ではがん啓発に関わるイベントや講演会に積極的に参加している。一般社団法人日本キャンサーアピランスケア協会理事。

今年は例年になく厳しい暑さ、線状降水帯の発生による大雨による被害が出ていたり、なかなか心の休まる夏とはなりそうにもありませんが皆様いかがお過ごしでしょうか？

私、婦人科がん患者会「よつばの会」代表をつとめております。タレントの原千晶と申します。

30代で子宮頸がんと体がんを経験したがんサバイバーです。二度目のがん治療をしていた13年前の今頃も非常に暑い夏で、術後の身体を抱えながらの抗がん剤治療は大きな負担があった事を記憶しています。

猛暑の中で被らなければならないウィッグ、骨盤内のリンパ節を郭清したことにより浮腫む足をケアするために履かなければならない分厚い医療用のストッキング。何度も挫けそうになりました



が、主治医の先生や看護師さんに支えられ治療を乗り越えました。そこから少しずつではありますが、日常を取り戻していき仕事に復帰し、患者会を立ち上げたり、がん啓発の講演会に呼ばれる機会が増えたり、私はがんを罹患する前とはまた違った充実した毎日を送らせて頂けるまでになりました。

2020年にはがん治療から10年という大きな節目を迎え、そのタイミングで長年所属した事務所を離れました。まずは10年間何事もなく元気に過ごせたことに心の底から感謝しました。そして10年間頑張ったご褒美として？ここから少し自分の好きなように生きてみようと思いついたのです。

まず、私は東京を離れました。

千葉県の外房方面に古い古民家を見つけ、賃貸で借りることにしました。車がなければ生活が難しいような少々不便な場所ではあるのですがその日食べる野菜などを直売所で入手して、あれこれと自炊をする。鳥の囀りだけが聞こえる中で、一人ゆっくりと食事を噛み締めながら楽しむ時間。東京では味わえない時間の流れ、丁寧な生活。誰にも邪魔されることなく生活を整えていたら、治療後15キロ以上も増えた体重もほぼ元通りになり、ダイエットにも成功していました。これに自信をつけた私は、せっかくなのでこの土地ならではの何かにチャレンジしてみました。

「釣り」です。

外房には勝浦、小湊、鴨川など色々な魚が堤防から釣れる漁港が点在します。元々釣りに何も知識がない中でしたが見よう見まねで道具を揃え、漁港に通い、拙い動作でやっていると地元の釣り師さんが見かねて色々教えてくれたり助けてくれたりするので。

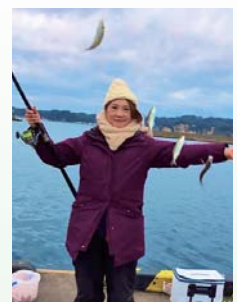


女性が一人で釣りをしているのが珍しいというのもあると思いますが人の優しさに触れ、そのお陰でぐんぐんと釣りのスキルも上がり、あっという間にのめり込んでいきました。新しい出会いに恵まれて釣り仲間も沢山できました。

今年の夏は宮崎県に講演会で呼ばれているのですが、思い切って船に乗り、初めての海域で真鯛を釣ってみたいと新たなチャレンジに心を躍らせている所です。

若くして二度のがんを経験し、それにより妊娠出産が叶わなくなったり一時は人生に大きく失望しましたが、今こうして健康でやりたい事に挑戦できたり、沢山の仲間と囲まれて笑顔でいられる事。全てにおいて心からの感謝しかありません。

喜怒哀楽をフルに使ってこれからも私らしく私だけの人生を謳歌していきたいと思っています。



# 紙飛行機

～友の会 会員便り～

## 月歌えることに感謝して

友の会 会員 平田 智子

今年目標としていた術後10年目に入りました。時の経つのは早いですね。この9年検査に入る度、1年の自堕落を後悔。平凡な日常が最上であることを噛み締める瞬間でした。

その私をいつも支えてくれたのが学生時代から続けた合唱でした。その経験からがん研主催の第九にも参加させて頂きました。そこで得られたのは互いが病と対峙する中、舞台上に立つという目標に向かい、ひたむきに練習する友たちとの熱量溢れる時間の共有と「生の実感」でした。

今は娘の母校の合唱団で年1回の演奏会とクリスマスには聖歌隊として賛美奉獻をしています。2020年、新型コロナの流行により活動は自粛、加えて各地でのクラスター発生のため無期限休止状態となりました。その間は自主練でしたが、1人ではハーモニーは作れません。物事の調和を表す「Harmonia」、それが崩れると人間も音楽も支障を来すと言われています。二つ以上の音が美しく響いて聴こえること、改めてハーモニーの大切さを感じました。

昨年秋、私たちにクリスマスの依頼が届きました。練

習不足の中、合唱用のマスクとガウン姿で3年ぶりにチャペルに立った時の感動はこの上もない喜びでした。温かな想いがチャペルいっぱい溢れたひととき、参列の方々の手にするキャンドルが「f分の1ゆらぎ」だったように思います。

誰もが制限された生活に耐え、尚もコロナと共存の日々を送っています。こうして歌う機会を与えられていることに感謝し、これからも仲間たちと歌っていきたいと思っています。

(参考)

\* f分の1ゆらぎについて

人間だけでなく動物にも心地よさを与える不思議なゆらぎで音や音楽にその例を示されることが多いですが、人の心拍の間隔やろうそくの炎、電車の揺れ、木漏れ日、蛍の光り方などもその例としてあげられています。(Wikipedia 等参照)



## さっぱりそうめん

がん研有明病院 栄養管理部

### 材料 (2人前)

そうめん(乾燥)…… 2束(100g)    めんつゆ(2倍希釈) …大さじ4杯  
卵…………… 1個    ★ 水……………大さじ4杯  
塩……………少々    【お好みで】  
サラダ油……………少々    チェリー・ねぎの小口切りなど  
きゅうり…………… 1/2本

### 作り方

- 鍋に湯を沸かし、そうめんを入れてほぐしながらゆでる。ゆでたら水にとって洗い、水気を切る。
- 卵をボウルにわり、塩を加えて混ぜる。フライパンにサラダ油を引き、卵を薄く焼く。薄く焼いた卵をまな板の上でたたみ、端から細く切って錦糸卵を作る。
- きゅうりは千切りにしておく。
- 皿にそうめんを盛り付け、錦糸卵、きゅうりを飾る。お好みでねぎの小口切りやチェリーなどで彩を添える。

### 一口メモ

冷たいそうめんは、暑い夏で食欲がわかないときにもおすすめです。味にバリエーションをつけたい時は、おろししょうがなどの薬味を使うほか、ゴマだれにすると香ばしい香りが食欲をそそります。そうめんと一緒に、温泉卵や蒸し鶏、納豆などのたんぱく質源と一緒に取るとより栄養バランスがよくなります。



## がん研有明友の会 現在の状況

医学の進歩により寿命が大幅に伸びましたが、そんな中、いま人類の最大の敵ともいえる病気、罹患率が高く死亡率が最も高いのががんです。

近年の研究でがんは遺伝子の異常によって引き起こされるものであることが明らかになっています。人の身体の中では常に古い細胞が新しい細胞に入れ替わっておりますが、その入れ替わりの段階においてタバコなどの有害物質により侵されたことなどにより遺伝子の異常が引き起こされます。年齢とともに罹患率が上がり高齢者に多いことから老人病扱いされ生活習慣病ともいわれますが、近年ではAYA世代と言われる若い方の罹患が大きな社会問題とされています。そうした世代の方にも注意が呼びかけられており、子どもの頃からの教育も進められるようになっております。そんなところから、先般、杉並区立和田中学校2年生の皆様にもむけたがん研有明病院花出看護師長によるがん教育講座、がんを知るための講演が行われました。

これはがんサバイバーであり和田一丁目町会副会長であるとともに本会理事である瀧澤広報委員長の仲介により開催に結びついたものですが、その時の様子が同中学校のほけんだより2年生特別号に掲載されました。校長先生のご許可をいただきましたので本会Facebookにも掲載いたしました。これまでコロナ騒ぎで友の会として思うような活動が出来ない中でしたが、出来ることから始めた一つといえます。皆様の身の回りでも講演してほしい、そんなご要望などありましたらお声がけいただければ、がん研有明病院の絶大なるご協力のもと実施が可能かと思います。

## 2023年度「講演・懇親会」について

コロナについてはまだまだ予断を許さず、感染症予防としてがん研有明病院内懇親会会場での飲食は禁止となっております。残念ではございますが、今年度も「懇親・講演会」は中止といたしました。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## 有明の風 表紙の写真について

浅間山は長野県と群馬県の境にある標高2,568mの成層火山で、活発な活火山として知られています。写真は友人別荘から浅間山麓を走行中、赤紫色の山肌を見せた雄大な姿を撮影したものです。撮影と説明：友の会理事 瀧澤邦夫

## この一冊

## 気持ちがラクになる がんとの向き合い方

“がん” 不治の病 と言われ恐れられてきましたが、今や極度に進行したがん、ごく一部のものを除けば治る病気、治せる病気となり、徒に恐れることはなくなって来ています。とはいえ、“がん”だと言われるとまだ精神的に不安定になる患者さん、ご家族の方は少なくはありません。ただ、がんを知ってがんとともに生きることを考えれば、恐れることなく精神的な悩みは大きく減らすことが出来ます。

今回は、がん研有明病院院長補佐、乳腺内科部長であられる高野利実先生による本書をご紹介します。

読売新聞による医療・健康・介護のニュース情報サイト yomiDr. (ヨミドクター) の人気連載が書籍化されました。

がんになっても、幸せな人生を！日本一大きいがん専門病院の腫瘍内科医が、がんの悩みや質問に答えます。

著者名：高野利実  
出版社名：ビジネス社  
発行年月：2023年4月3日  
サイズ：単行本 240ページ  
価格：1,650円



## 有明友の会 入会のご案内

有明友の会は、がんで命を落とさないようにするために、がんに関する知識を深め、情報を共有し、がんを気をつけよう、がん研究の支援により、進んだ医療が受けられるようにしようということを目的としております。

その活動は、年4回の会報発行、公開講座の開催などの他、日本で最も歴史のあるがん研究会の事業支援をすることとしており、年会費は5,000円(個人、一口)となっております。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

がん研有明友の会会報 発行元・事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 がん研有明病院内 TEL: 03(3570)0561 FAX: 03(3570)0562

HP: <http://ariaketomonokai.org> E-mail: [tomonokai@jfc.or.jp](mailto:tomonokai@jfc.or.jp)



◀友の会ホームページ